

資本コスト計算攻略ブック



※当資料に従うことで、法令違反がないことを保証する資料ではありません。
※あくまで参考としてご利用いただくことを想定している資料です。実際の制度内容は国の資料等をご確認ください。
※当資料は、2025年11月時点の内容となっております。最新の情報は国の資料等をご確認ください。

資本コスト計算攻略ブック

資本コスト計算の重要性

企業は、事業活動を行うために調達した資金（資本）に対し「資本コスト」を支払う必要があります。この資本コストを意識・理解せずに経営活動を行っても、それを上回る収益を生み出すことはできません。

資本コストは、いわば「企業が最低限稼ぐべきハードル」です。このハードルを計算によって数値化して把握し、それを上回る利益を生み出すことで、株主の期待に応えながら企業価値を高めていくことができます。

計算のゴール：WACC（ワック）

資本コストを求める代表的な方法として「WACC（Weighted Average Cost of Capital：加重平均資本コスト）」があります。

これは、企業が調達した「負債コスト」と「株主資本コスト」を、それぞれの時価（調達額）で重要度などを加味して「加重平均」したものです。

WACCは、現在の事業価値を計算する際の「割引率」としても利用されます。

資本コスト計算攻略ブック

WACC計算の「2大要素」を仕分ける

WACC（加重平均資本コスト）は、資金の調達源である「負債」と「株主資本」の2種類のコストから構成されます。

負債コスト

- ・ **概要**：銀行・金融機関からの借入（負債）によって発生するコスト。「他人資本コスト」とも呼ばれる。
- ・ **具体例**：金利、社債の発行の際にかかった費用

株主資本コスト

- ・ **概要**：出資で調達した資本（自己資本）に対して発生するコスト。投資家から見た際の配当と考えるのがわかりやすい。
- ・ **具体例**：株主が期待する配当

資本コスト計算攻略ブック

WACCの「計算式」を徹底解説

WACC（加重平均資本コスト）は、以下の計算式によって求められます。

WACCの計算式：
$$WACC = D / (D + E) \times rD(1 - T) + E / (D + E) \times rE$$

計算式を構成する変数

WACCの計算式で使われるアルファベットは、以下の要素を示しています。

変数	意味
D	有利子の負債額
E	株主資本の時価総額
rD	負債コスト（金利）
rE	株主資本コスト
T	実効税率

資本コスト計算攻略ブック

WACCの「計算例」で実践する

以下のケースを使い、計算式に当てはめてみます。

前提情報

項目	変数	数値
株主資本	E	1,000万円
負債	D	500万円
株主資本コスト	rE	7.2%
負債コスト	rD	3.2%

計算ステップ

この計算例では、株主資本コスト(rE)の項が先に記載されています。また、この計算例では「実効税率(T)」が考慮されていません（一般式にある(1-T)の部分が省略されています）。

計算式： $WACC = rE \times (E / (D + E)) + rD \times (D / (D + E))$

資本コスト計算攻略ブック

WACCの「計算例」で実践する

1. 数値を代入する

$$\bullet \text{ WACC} = 7.2\% \times (1,000\text{万円} / (500\text{万円} + 1,000\text{万円})) + 3.2\% \times (500\text{万円} / (500\text{万円} + 1,000\text{万円}))$$

2. 比率を計算する

$$\bullet \text{ WACC} = 7.2\% \times (1,000\text{万} / 1,500\text{万}) + 3.2\% \times (500\text{万} / 1,500\text{万})$$

$$\bullet \text{ WACC} = 7.2\% \times (2 / 3) + 3.2\% \times (1 / 3)$$

3. 合算する

$$\bullet \text{ WACC} = 4.8\% + 1.066\ldots\%$$

$$\text{WACC} = 5.87\%$$